

<言語表現学科> (認定課程: 中学校1種(国語) )

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語学入門Ⅰ」「文章技術論Ⅰ」「国語表現法Ⅰ」「会話技術論Ⅰ」を、国文学の区分では、「日本文学入門Ⅰ」「日本文学史Ⅰ」を必修科目として履修することで、国語学及び国文学の基礎を修得する。
	2 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語学入門Ⅱ」「文章技術論Ⅱ」「国語表現法Ⅱ」「会話技術論Ⅱ」を、国文学の区分では、「日本文学入門Ⅱ」「日本文学史Ⅱ」を必修科目として履修することで、国語学及び国文学の基礎を修得する。
	通年	書道の区分では、「書道Ⅰ」を開設し、必修とすることで、書写に関する基礎を修得する。
2年次	3 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語文法Ⅰ」「日本語音声学Ⅰ」を必修科目として、「現代日本語論Ⅰ」「実践話術」を選択必修科目として開設する。国文学の区分では、「上代文学を読むⅠ」「中古文学を読むⅠ」「中世文学を読むⅠ」「近世文学を読むⅠ」「近代文学を読むⅠ」「メディアリテラシー」を選択必修科目として開設する。漢文学の区分では、「中国文学を読むⅠ」を必修科目として開設する。必修科目、必修選択科目の履修を通して、高等学校における、現代文、古典分野に関する基礎知識を修得する。
	4 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語文法Ⅱ」「日本語音声学Ⅱ」を必修科目として、「現代日本語論Ⅱ」「レトリック論」を選択必修科目として開設する。国文学の区分では、「上代文学を読むⅡ」「中古文学を読むⅡ」「中世文学を読むⅡ」「近世文学を読むⅡ」「近代文学を読むⅡ」「文学の文化史」を選択必修科目として開設する。漢文学の区分では、「中国文学を読むⅡ」を必修科目として開設する。必修科目、選択必修科目の履修を通して、高等学校における、現代文、古典分野に関する基礎知識を修得する。
	通年	「国語科教育法Ⅱ」を「教職に関する科目」として開設し、教科の指導法に関する必修科目として履修し、国語科における指導内容と指導方法について理解を深める。
3年次	5 Semester	漢文学の区分では、「中国文学を読むⅢ」を必修科目として履修し、漢文に関する深い知識と、教材を扱う際の基本的な知識を修得する。
	6 Semester	漢文学の区分では、「中国文学を読むⅣ」を必修科目として開設する。漢文に関する深い知識と、教材を扱う際の応用的な知識を修得する。
4年次	通年	「教職に関する科目」としては、「教育実習Ⅰ」を必修科目として履修し、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、国語科における授業実践の基本的力量を身に着ける。「教育実習」終了後は、事後指導として、教科指導のみならず、教師としての職務についての理解を深める。

<言語表現学科> (認定課程: 高等学校1種(国語) )

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語学入門Ⅰ」「文章技術論Ⅰ」「国語表現法Ⅰ」「会話技術論Ⅰ」を、国文学の区分では、「日本文学入門Ⅰ」「日本文学史Ⅰ」を必修科目として履修することで、国語学及び国文学の基礎を修得する。
	2 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語学入門Ⅱ」「文章技術論Ⅱ」「国語表現法Ⅱ」「会話技術論Ⅱ」を、国文学の区分では、「日本文学入門Ⅱ」「日本文学史Ⅱ」を必修科目として履修することで、国語学及び国文学の基礎を修得する。
	通年	書道の区分では、「書道Ⅰ」を開設し、必修とすることで、書写に関する基礎を修得する。
2年次	3 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語文法Ⅰ」「日本語音声学Ⅰ」を必修科目として、「現代日本語論Ⅰ」「実践話術」を選択必修科目として開設する。国文学の区分では、「上代文学を読むⅠ」「中古文学を読むⅠ」「中世文学を読むⅠ」「近世文学を読むⅠ」「近代文学を読むⅠ」「メディアリテラシー」を選択必修科目として開設する。漢文学の区分では、「中国文学を読むⅠ」を必修科目として開設する。必修科目、必修選択科目の履修を通して、高等学校における、現代文、古典分野に関する基礎知識を修得する。
	4 Semester	「教科に関する科目」の履修においては、国語学の区分では、「日本語文法Ⅱ」「日本語音声学Ⅱ」を必修科目として、「現代日本語論Ⅱ」「レトリック論」を選択必修科目として開設する。国文学の区分では、「上代文学を読むⅡ」「中古文学を読むⅡ」「中世文学を読むⅡ」「近世文学を読むⅡ」「近代文学を読むⅡ」「文学の文化史」を選択必修科目として開設する。漢文学の区分では、「中国文学を読むⅡ」を必修科目として開設する。必修科目、選択必修科目の履修を通して、高等学校における、現代文、古典分野に関する基礎知識を修得する。
3年次	5 Semester	漢文学の区分では、「中国文学を読むⅢ」を必修科目として履修し、漢文に関する深い知識と、教材を扱う際の基本的な知識を修得する。
	6 Semester	漢文学の区分では、「中国文学を読むⅣ」を必修科目として開設する。漢文に関する深い知識と、教材を扱う際の応用的な知識を修得する。
	通年	「国語科教育法Ⅰ」を「教職に関する科目」として開設し、教科の指導法に関する必修科目として履修し、国語科における指導内容と指導方法について理解を深める。
4年次	通年	「教職に関する科目」としては、「教育実習Ⅱ」を必修科目として履修し、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、国語科における授業実践の基本的力量を身に着ける。「教育実習」終了後は、事後指導として、教科指導のみならず、教師としての職務についての理解を深める。

<言語表現学科> (認定課程: 高等学校1種(書道) )

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	「教科に関する科目」においては、国文学科目として「日本文学入門Ⅰ」「日本文学史Ⅰ」を必修科目として履修し、国文学の基礎を修得する。
	2 Semester	「教科に関する科目」においては、国文学科目として「日本文学入門Ⅱ」「日本文学史Ⅱ」を必修科目として履修し、国文学の基礎を修得する。
	通年	「教科に関する科目」においては、書道(書写を含む)科目として「書道Ⅰ」を必修科目として履修し、漢字の楷書・行書、それに調和するひらがなについての文字の伝統と文化を理解し、教育書体を的確に書くことにより書写能力を修得する。
2年次	3 Semester	「教科に関する科目」においては、書道史科目として「書道史Ⅰ」を必修科目として、中国の書道の歴史を修得する。国文学科目として「上代文学を読むⅠ」「中古文学を読むⅠ」「中世文学を読むⅠ」「近世文学を読むⅠ」「近代文学を読むⅠ」「メディア・リテラシー」「読書の文化史」「出版の文化史」を選択必修とし、書道の素材題材としての文学的素養を身につけるとともに、古文や現代文を書くための国文学の基礎的な知識を修得する。漢文学科目として「中国文学を読むⅠ」を選択必修とし、漢詩文を書くための漢文学の基礎を修得する。
	4 Semester	「教科に関する科目」においては、書道史科目として「書道史Ⅱ」を必修科目として、日本の書道の歴史を修得する。国文学科目として「上代文学を読むⅡ」「中古文学を読むⅡ」「中世文学を読むⅡ」「近世文学を読むⅡ」「近代文学を読むⅡ」「文字の文化史」を選択必修とし、書道の素材題材としての文学的素養を身につけるとともに、古文や現代文を書くための国文学の基礎的な知識を修得する。漢文学科目として「中国文学を読むⅡ」を選択必修とし、漢詩文を書くための漢文学の基礎を修得する。
	通年	「教科に関する科目」においては、書道科目として「書道Ⅱ」を必修科目として履修し、漢字の五書体についての成り立ちと変遷、伝統と文化を理解し、漢字の臨書による書法と芸術表現を修得する。
3年次	5 Semester	「教科に関する科目」においては、書論、鑑賞科目として「書論」を必修科目として履修し、中国の書論および鑑賞の知識を修得する。漢文学科目として「中国文学を読むⅢ」を必修科目として履修し、書道の素材題材についての文学的素養を身につけ、漢詩文を書くための漢文学の応用的な知識を修得する。
	6 Semester	「教科に関する科目」においては、書論、鑑賞科目として「書学」を必修科目として履修し、日本の書論および鑑賞の知識を修得する。漢文学科目として「中国文学を読むⅣ」を必修科目として履修し、書道の素材題材についての文学的素養を身につけ、漢詩文を書くための漢文学の応用的な知識を修得する。
	通年	「教科に関する科目」においては、書道科目として「書道Ⅲ」を必修科目として履修し、仮名の成り立ちと変遷、伝統と文化を理解し、仮名書法の基礎基本を修得する。 「教職に関する科目」においては、「教科の指導法」として「書道科教育法」を必修科目として履修し、書道科における指導内容と指導方法について理解を深める。
4年次	通年	「教科に関する科目」においては、書道科目として「書道Ⅳ」「書道Ⅴ」を必修科目として履修し、漢字、仮名の臨書と創作による芸術表現、あわせて漢字仮名交じりの書の創作による芸術表現を修得する。 「教職に関する科目」としては、「教育実習Ⅱ」(書道)を必修科目として履修し、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、書道科における授業実践の基本的力量を身に着ける。「教育実習」終了後は、事後指導として、教科指導のみならず、教師としての職務についての理解を深める。